



北村 あや子 区政ニュース

高齢者補聴器購入助成 申請者が増えています

2022年度から始まった高齢者補聴器購入助成。今年度から、その補助額が25,000円から、72,450円に引き上がりました。

最多購入価格が片耳10万円～12万5千円でしたので、区の助成額が2万5千円ですと10万円近くの自己負担があり、購入を諦めた人も多かったと思います。助成額が72,450円になったことで、約8カ月で173人とな

利用者数 1カ月当たり

2022年度6月～	88名	8.8人
2023年度	158名	13.2人
2024年度 4月～12月9日	173名	21.6人

り昨年度1.6倍のペースになっています。

港区では医師会や補聴器販売店とも相談して、制度発足当時から、60歳以上住民税非課税13万7千円まで助成(住民税課税者は2/1)しています。

初期は13万7千円以内の補聴器で十分適応でき、自己負担なく買える方も多いそうです。引き続き、みなさんの声を届けていきます。

ほちょうき
補聴器の購入費の一部助成

対象者

- 1 満65歳以上の方
(荒川区内に住民票がある)
- 2 耳鼻咽喉科の医師が
補聴器の必要性を認めた方
- 3 両耳の聴力レベルが
40dB以上70dB未満の方
- 4 聴覚障害による
障害者手帳を持っていない方

【問合せ】福祉部高齢者福祉課高齢者福祉係 電話番号:03-3802-3111(内線)2678

アプリで「あらかわ健康チャレンジ」1月8日から

楽しみながら健康習慣が身につく荒川区オリジナルアプリが1月8日にリリースされます。食事内容を入力したり、区内ウォーキングコースを巡ったり、1日3,000歩以上スマホを携帯して歩いたりすることなどでポイントがたまります。ポイントで「giftee デジタルギフト」「図書カードNEXT ネットギフト」の景品が得られます。18才以上の区民なら無料で参加できます。

区は健康増進計画で、働き盛り世代や健康無関心層への健康づくりを支援していくとしています。若い世代の方々に健康意識をもってもらうことはとても重要な課題です。一方、アプリで集まる区民の個人情報や健康にかかる情報はきちんと保護されなければなりません。

【問合せ】あらかわ健康チャレンジコールセンター 電話:0570-052-055

せん。個人情報漏洩のニュースは後を絶ちません。委員会報告の際に指摘をしました。

今後、民間のスポーツ施設を利用した際にもポイントが付与されるよう検討しているようです。現在区内には大小約20件のスポーツクラブがあります。トレーナーさんが常駐していなかったり、いても非常に少なかったりというクラブもあります。マシンの使い方を丁寧に聞けずかえって健康を損ねてしまうという心配もあります。ポイント付与する場合、区がよく調査して選定してほしいと思います。



「コミュニティバスの縮小に待った」新区長の真意は



滝口新区長は「コミバス縮小に待った」「身近な交通手段の再構築」と公約に掲げて当選しました。この問題で区長に質問しました。

土木担当部長の答弁は、「鉄道駅やバス停まで一定距離離れている地域がわずかなことなど、運行当初から運行経費を負担しない事業者の自主運行を基本に実施。しかし、利用者の減少・燃料費人件費の高騰、運転手不足により廃止・減便を余儀なくされ厳しい状況になっている。路線バスに限らない多様な交通手段を検討する必要がある。現在、その実現に向け区内での検討会の開催や関係事業者との意見交換を行っている」とこれまでと変わらない内容でした。区長でなく担当部長の答弁だったことも残念です。

問われる区の責任・地域公共交通計画策定を

区長の公約は「コミュニティバスの縮小に待った！区民の足を便利に、身近な交通手段の再構築」と明確です。公明党、ゆいの会もコミュニティバスについて質問。区長答弁は、公明党だけで内容も質問に合わせた言い訳に聞こえました。日本共産党やゆいの会の補助金投入など求める質問への答弁は避けたようです。♪

北区のデマンド交通実証運行 大人1回300円

おとなり北区では2025年3月までデマンド型交通の実証運行を実施中です。地域住民からの地域交通への強い要望の中での運行です。北区民でなくても利用できるのも、荒川区民も使っているようです。利用者からは、病院へ行くのに便利だったと好評です。

荒川区でも、2021年度に廃止されたコミュバス「町屋さくら」ルートで、2023年7月から2024年3月までの間、デマンド交通の実証実験を行いました。こちらは利用者がほとんどいなくて大失敗とのこと。ただ、結果の議会への正式な報告は未だされていません。日本共産党荒川区議団は12月4日の建設環境委員会でデマンド交通実証実験の結果を報告するよう求めました。

デマンド型交通とは：決められた乗降場所の間を事前に予約した乗合タクシーで移動する公共交通です

＊次回の法律相談は2025年1月17日です。年内の定例法律相談は終了しました。

お急ぎの方には弁護士事務所をご紹介しますのでご連絡ください。生活相談はいつでもどうぞ。

＊インフルエンザが流行しています。荒川区は警報レベル(12月9日～15日)。

手洗いうがいマスク着用での予防をお勧めします。健やかに新年をお迎えください。

今年も1年ありがとうございました！来年もよろしくお願いいたします。

公約に責任を持つなら、交通・移動手段の実態調査を実施、地域公共交通計画の策定に取り組むことが求められます。

【公明党の質問】

さくらバスを継続・他地域にもとなれば年間1億、2億と負担がかかる。「縮小に待った！」というのがパフォーマンスでないのなら、コミュニティバスをどうするか。

➡【区長答弁】公約は、唯一残る南千住さくらをこれ以上縮小させない決意を示したものだ。今後は車両更新の補助など、路線存続の支援をすすめると同時に、さくらバスが廃止となった地域に、あらゆる可能性を検討することで再構築を進める。

【ゆいの会の質問】

さくらバスは地域住民にとって重要な足であり、地域公共交通を完全に廃止していいのか疑問。自主運行から補助金投入へ切り替えた区もあり、荒川区も具体的な対応に向けて検討に入るべき。

➡【部長答弁】バス事業者は、多額の補助があっても運転手不足は解消されず、運行は難しいとの意見。今後、車両更新の際の補助について協議をすすめる。現在、区が車両や燃料費を助成・運転手は地元住民が担う方式について、一部の団体に打診を行っている。

